

## おわりに

本調査検討会では、観光地や美術館などの観光施設において、歴史的建造物や展示物等の解説を高精細映像で、また、数カ国語の音声で情報提供をすることができる観光情報支援システムを最新の無線技術を活用して構築し、通信試験により評価を行うとともに、低廉かつ効率的に実現するための観点からも検討を行い、実用化に向けた課題と方策について言及した。

主に観光地での利用を想定したシステムでは、昨年 6 月の省令改正により高速無線 LAN の導入が可能となったことを受けて、高速無線 LAN 規格「IEEE802.11n」ドラフト 2.0 版の最新の無線技術を活用して構築し、通信試験を行いシステムの有用性を検証した。通信試験の結果、従来の無線 LAN 規格「IEEE802.11g」に比較して転送速度が高く、公開試験におけるモニターからも高い評価を受け、今後の実用化に向けて有用性が確認できた。

また、主に美術館や博物館などでの利用を想定したシステムでは、ワンセグ映像配信技術を活用した送信機で構築し、通信試験を行いシステムの有用性を検証した。通信試験の結果、発射する電波が著しく微弱な送信機のため受信エリアが狭く通信環境に影響を受けやすいことが分かったが、公開試験におけるモニターからは高い評価を受けたことから、広く普及してきているワンセグ機能付き携帯電話により受信可能という特徴を活かしつつ、今後の実用化に向けて有用性が確認できた。

一方、システムの構築上やシステムの運用の検討において、高速無線 LAN に対応した受信端末の開発・普及といった課題、美術品等に著作権がありコンテンツの作成が容易でないといった課題、そして美術館等ではカメラ付き携帯電話の持ち込み禁止の施設が多いといった課題など、直ちに解決できないような問題があることが判明した。

このような問題はあるものの、観光振興や観光産業の支援を図る上で ICT の利活用が有効であることが分かり、また、観光施設へのニーズ調査やモニター調査を通じて、観光情報支援システムの実現への期待が感じられた。

今回の成果が、観光情報支援システムの実用化への足がかりとなり、地域の観光産業の支援と観光立国の実現のために少しでもお役に立てられることを願いたい。